

カルピス社の“心の健康”研究 進捗報告
「カルピス」を親子で一緒につくって*¹ 飲む体験が
親子のコミュニケーションを生み出し
子どものすこやかな心の成長に貢献することを確認

日本発達心理学会第26回大会(3月20~22日/東京)にて発表

カルピス株式会社(本社:東京都渋谷区、社長:岸上克彦)発酵応用研究所は、白百合女子大学との共同研究により、希釈して飲む「カルピス」を親子で一緒につくって飲む体験が、親子のコミュニケーションを生み出し、子どもが自分で考えて取り組む力や、思いやりの心を育むことを見出し、この研究結果を日本発達心理学会第26回大会(2015年3月20~22日)で発表しました。

【背景】

カルピス社では、心とからだの健康に役立つ商品・技術を提供することを目指し、乳酸菌など微生物の研究とともに、「カルピス」をつくって飲むことの心理面への影響についても、さまざまな観点から研究*²をおこなっています。近年わが国では、地域コミュニティの希薄化や核家族化、女性の社会進出により地域や家庭の子育て機能が低下しており、育児に不安を感じる方が増加していると言われていています。当社ではその一助となることをめざし、「カルピス」を親子で一緒につくって飲むことの心理への影響について研究に取り組みました。今回、白百合女子大学との共同研究により、“幼児期と児童期のお子様をもつ親子が「カルピス」を一緒につくって飲む様子”について観察し、その特徴を把握することで、子の成長にどのように繋がるかを検証しました。また、“親子が一緒に行うほかの活動(調理、お絵かき・工作)における特徴”と比較しました。

【調査概要】

1. 「カルピス」を親子で一緒につくって飲む場面の観察調査

対象者: 3歳児~小学5年生の母子(16組)
方法: 「カルピス」を親子で一緒につくって飲む場面を3回分撮影したビデオから、親子の行動を分析した。

※評価項目はP.4参照



2. 親子が一緒に行うほかの活動場面との比較に関する質問紙調査*³ 「カルピス」を親子で一緒につくって飲む場面のイメージ

対象者: この1年間に親子で「カルピス」をよくつくっている4歳児~小学2年生のお子様をもつ母親(286名)
方法: 上記1の調査で評価した行動についての質問紙調査を行い、場面間(※)で比較した。
※「カルピス」を親子でつくって飲む場面と、そのほかの活動場面
有効回答数/「カルピス」体験: 286件、調理: 196件、お絵かき・工作: 286件

<本件に関するお問い合わせ先>

アサヒグループホールディングス株式会社 広報部門

電話:03-5608-5126

<お客様からのお問い合わせ先>

カルピス株式会社 お客様相談室

フリーダイヤル:0120-378090

【結果】

1. 観察調査結果

「カルピス」を親子で一緒につくって飲む体験を通じて、親子の豊かなコミュニケーションが生まれ、子が自分で考えて取り組むように成長することが明らかとなりました。

<親の特徴>

子の様子に応じた働きかけ(アドバイスや見守り)を頻繁に行う。

<子の特徴>

①「カルピス」をつくることを任されたことがうれしく、集中して取り組む。

②親のアドバイスを聞きながらも、次第に自分で考えながら上手につくれるようになり、味や濃さを自分なりに表現する。



図1. 親子それぞれの特徴的な様子とその関連性

2. 質問紙調査結果

親子で一緒に行う調理、お絵かき・工作と比べ、「カルピス」を親子で一緒につくって飲む活動は、子が自分で考える力や、人を思いやる心を育む上で優れていることを示唆する結果が得られました。

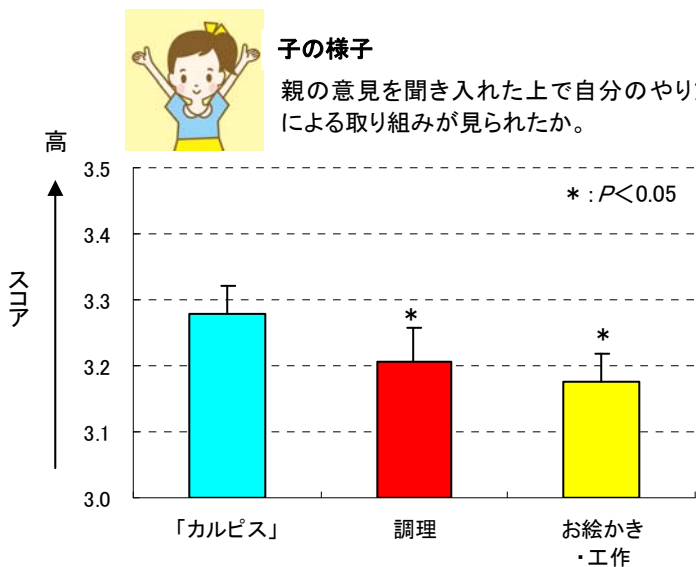


図2. 自分で考える力に関する項目

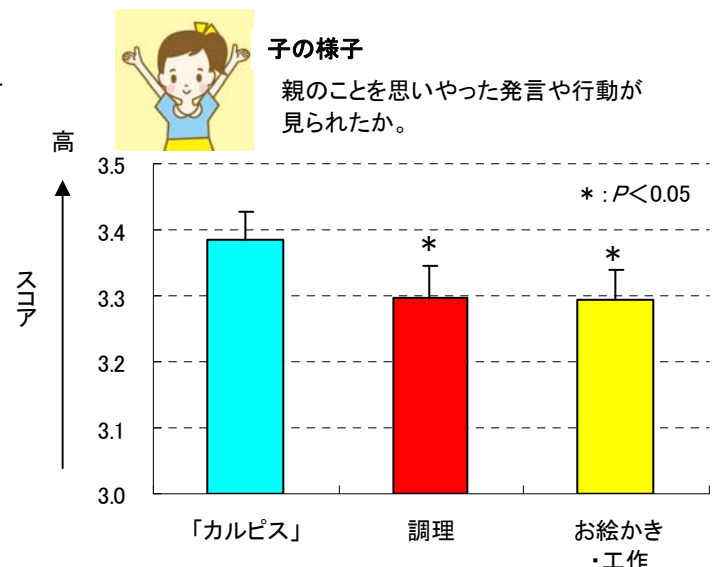


図3. 人を思いやる心に関する項目

※グラフのスコアは、1から4までの区分による回答の平均値
(1:まったくそうではない、2:あまりそうではない、3:ややそうだ、4:とてもそうだ)

